

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。



《沖縄協同病院医師研修理念》

- 基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。

2024年度の
スタートにあたって



事務長
新垣 哲治

組合員の皆さんこんにちは。昨年5月に、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「2類相当」から「5類感染症」に移行されましたが、引き続き面会等につきましては一部制限をさせていただくこととなります。患者さん・ご家族さんにはご不便をおかけしていますが、病院内での感染拡大防止対策にご理解、ご協力を頂きますようお願い致します。

さて、医療を取り巻く情勢は年々厳しくなっています。団塊の世代が全て75歳以上の高齢者となる2025年に向けた道筋を示すものとして、地域医療構想が定められ、その実現のために病院は、医療機能の分化、連携など役割分担が求められています。現在、沖縄協同病院も外来機能を明確化するため「紹介受診重点医療機関（紹介を原則とした外来）」になるための準備を進めています。今後は、医療生協内でも役割分担を進めます。とよみ生協病院や協同にじクリニックなどが「かかりつけ医機能」を担うことで、これまで通り安心して受診できる環境を準備していきます。

最後に、病院の理念でもある無差別平等の医療を実践できるよう取り組みを行い、皆さんの健康を守り、最善の医療を提供し続けます。患者さんや地域組合員の皆さんからの信頼に応えられるよう、日々努力を重ねてまいります。

2024年度も、沖縄協同病院はより進化し地域の中核的な急性期病院として役割を果たしてまいります。どうぞよろしくお願い致します。

腫瘍内科外来開設のお知らせ



腫瘍内科
(化学療法センター医長)
安次嶺 宏哉

2024年4月より、「腫瘍内科外来」を開設いたします。がんの診療は、外科系医師、内科系医師、放射線科医師、看護師、薬剤師、緩和ケアチームなど、さまざまな職種が連携して行われます。腫瘍内科は主にがんの薬物療法を専門としていますが、臓器横断的に様々ながん種における診断や治療、支持療法*や緩和ケアを行う診療科です。当科では消化器がん、乳がん、肺がん、泌尿器がんのみならず、原発不明がんや肉腫といった希少がんに対する薬物療法を行っています。また、がん遺伝子パネル検査や重複がん**におけるコーディネート等も行っています。医療の発展とともに、診断や治療方法が複雑化していますが、がん診療に携わるあらゆるスタッフと連携しながら、精一杯診療を行ってまいります。

- *支持療法とは、がんそのものに伴う症状や、治療による副作用・合併症による症状を軽くするための治療です。
- **重複がんとは、一人の患者さんが複数の臓器のがんになった状態のことです。



今月の1枚 辺野古新基地NO



病院の活動状況
<2024年2月度>

- ・外来一日平均患者数：318人（前年同月比 -3人）
- ・入院一日平均患者数：256人（前年同月比 +14人）
- ・組合員利用分量(率)：56.3%（前年同月比 -4.9%）

心アミロイドーシスご存じですか？

循環器内科より



アミロイドーシスとは、アミロイドと呼ばれる異常蛋白質が全身の様々な臓器に沈着し、機能障害をおこす病気の総称です。複数の臓器にアミロイドが沈着する全身性のもの（全身性アミロイドーシス）と、ある臓器に局限してアミロイドが沈着する限局性のもの（限局性アミロイドーシス）に分けられます。限局性アミロイドーシスの代表的な疾患には、よく名前を聞くアルツハイマー型認知症が挙げられます。

全身性アミロイドーシスの中には、心臓にアミロイドが沈着する心アミロイドーシスが含まれます。心アミロイドーシスは、蓄積したアミロイドにより心臓の筋肉が厚くなり、それが原因で次第に心臓のはたらきが低下し心不全となり、やがてはお亡くなりになる予後の悪い病気でした。

- ① 骨髄腫などの血液疾患に合併することが多い免疫グロブリン性アミロイドーシス(ALA型アミロイドーシス)
- ② 加齢とともに増加する野生型トランスサイレチン(ATTRL)アミロイドーシス
- ③ 日本で1000人ほどと推定されているまれな遺伝性トランスサイレチン(ATRP)アミロイドーシス

特に高齢者に合併してくることが多いトランスサイレチンアミロイドーシスは最近まで特異的な治療法がありませんでした。しかしながら2019年にタファミジスという内服薬が使用できるようになったことで、早期に診断し治療を開始すれば症状の進行を遅らせ、予後を延ばすことができるようになってきています。

当院循環器内科では、心不全で入院した患者さんで、心アミロイドーシスが疑わしい方を対象に心筋生検などを行い早期発見に努めています。

救急科部長・循環器内科医
伊良波 禎

日本内科学会 第344回

九州地方会 初期研修医奨励賞・指導医賞受賞

去る1月27日に福岡で行われた日本内科学会九州地方会にて発表の機会をいただきました。私が発表した症例は「壮年期男性の精巣上体炎について」でした。去年のGW初日、大多数の救急患者でごった返していた中必死で働いておりましたが、あまりにも患者が多く待ち時間を少しでも短縮しようとした結果、丁寧な問診・診察が出来なかったことを覚えています。本症例の患者もその一人でした。後日血培陽性と判明したときは非常に焦りましたし、起因菌が通常予想される菌とは全く違う菌が検出され、あれよあれよという間に気づいたら学会発表していました。発表準備を行うにあたり、自分のカルテを何度も見直していると、問診・診察のあまりの杜撰さに深く反省すると同時に、菌を迅速に検出して下さった細菌検査室の方々への感謝、そしてもっと頻繁に細菌検査室へ足を運ぶべきだったと痛感しました。

学会発表は自分の日常臨床業務を振り返る良い機会である他、論文を多く読み先人たちの知恵を垣間見たり、日頃指導医の先生方がどう考えながら臨床を行っているのかを拝見できるチャンスだと思います。研修医の皆さんには是非1度挑戦してみたいなと思うと同時に、指導医の先生方にもご指導・ご鞭撻をお願いしたく存じます。

最後にこの症例は症例報告として現在絶賛執筆中です。指導医の石井先生には発表準備から懇切丁寧に教えてくださり感謝申し上げますと同時に、引き続き論文の推敲でお世話になります。今後ともよろしくお願いいたします。

初期研修医 花城 真由



花城研修医 石井内科部長 (感染症)



〈救急センター研修医へのお礼〉

これまでに経験したことのない頭痛で、連日救急でお世話になりました。初めは原因が分からず途方に暮れ感情的になりましたが、研修医の〇〇先生が親身になり話を聞いてくださいました。感謝申し上げます。おかげ様で元気になりました。



2023年度 初期・後期臨床研修 修了式



部署紹介

⑭ 医療事務課

病院内での事務といえばいくつかの部署が存在しますが、今回は医療事務課の紹介をします。

医療事務課では医療事務に係る業務をメインとし、外来事務では初診や再診で病院を訪れる患者さんの接客対応や会計、請求金額入力や様々な業務に携わります。入院事務では入退院の手続きや入院診療費の請求業務を担当します。また毎月末には患者さんの診療費をレセプトと呼ばれる診療報酬明細書にまとめ、各関係機関へ提出します。

医療事務課 課長 伊集 守専



委員会活動報告 23.CST委員会

2017年より排尿ケアチームを立ち上げ、医師、看護師、リハビリ、薬剤師などの多職種で活動を開始しています。目的は、尿道留置カテーテルを一日でも早く抜去し、尿路感染を防止すること、排尿自立の方向に導くことです。対象は、尿道カテーテル抜去後に尿閉、失禁が予想される患者さんの原因を判断し、改善への提案を行っています。排泄ケアで困った事があれば私達に一声かけてください。

CST(コンチネンサポートチーム)委員会 看護師 照屋 勝士



ハルサー 金城 稲子

食料自給率38%(主要先進国で最下位)の日本、極端に言えば6割強の国民の命が他国に委ねられているということだ。気候変動等による世界的な食糧危機を見越して準指定野菜である特定野菜(サヤエンドウ、グリーンピース等35品目)を指定野菜に昇格させて自給率を上げることも生存率を高くする一案である。

ハルサー だより ⑭

グリーンピース

グリーンピースはご存じの通りエンドウのことである。エンドウは出世魚のように成長するにつれて名前が変わる。まずは豆苗(種を発芽させた野菜)→絹サヤ・サヤエンドウ(さやを食べる)→グリーンピース(実を食べる)→エンドウ豆(完熟させてウグイス餡等に使用)というようにめまぐるしく出世する野菜である。因みにスナップエンドウはサヤエンドウとグリーンピースの中間でサヤが固くならないように品種改良したものである。